

上田市教育委員会 11月定例会会議録

1 日 時

平成 20 年 11 月 19 日 (水)

午後 2 時 30 分から 3 時 23 分まで

2 場 所

上田市教育委員会 (やぐら下庁舎) 2階会議室

3 出席者

委員

委 員 長	西田 不折
委員長職務代理者	金子 泰子
委 員	生田千鶴子
委 員	春原 秀一
教 育 長	森 大和

説 明 員

小菅教育次長、北沢教育参事、保科教育総務課長、小野塚学校教育課長、原澤生涯学習課長、鵜山人権同和教育政策幹、中部文化振興課長、古平体育課長、清水丸子地域教育事務所長、竹内社会教育課長、荒井真田地域教育事務所長、手塚第一学校給食センター所長、金井丸子学校給食センター所長、浅野中央公民館長、古川城南公民館長、細川塩田公民館長、大滝上田情報ライブラリー館長、掛川市民会館長、寺島博物館長、増田上野が丘公民館長、佐藤川西公民館長、藤塚丸子公民館長、芳沢真田公民館長、下村武石公民館長

<協議事項>

1 人権同和教育の基本方針について

資料1により磐山人権同和教育政策幹説明

生田委員

意識調査は前回調査と同じような結果という事であるが、5年かけて色々なイベントや啓発活動等をしてきたにも関わらず前回と同じ意識レベルというのは問題である。人権問題は、教育委員会として最も力をいれなければならない課題である。学校でも苛め・不登校が増えている。もっと切り込んだ方策が必要ではないか。学校現場で子ども達の人権が尊重されているかについてもしっかり見ていかなければいけない。

小野塚学校教育課長

学校の中では、人間関係や友達関係から苛めや不登校になる子供も多く、一度壊れた人間関係はなかなか修復できないというのが実態である。学校人権同和教育においては、友達の良さを認め合う、助け合う、相手の気持ちを考える、思いやりの気持ちを持つといったことを学校目標としてほとんど全ての学校が掲げている。実際の意識として先生方、子どもたちに浸透させることが学校の責務である。この方針を作るにあたっては、学校の先生方も入っているということであるので、認識を新たにして取り組んでいただけるものと期待している。

磐山人権同和教育政策幹

アンケート結果についての前回との比較は、合併があったため対象地域が変わっているため単純には比較できない。児童、生徒に自他の大切さを認識させ、具体的な態度や行動に現れるよう指導していく事で苛めや校内暴力を許さない学校となるよう努めたい。

金子委員

生田委員の意見に賛同する。調査結果で「差別・偏見がある」「どちらかというところ」との回答が50%を超えるという厳しい市民の意識が明らかになっている。内実をもう少し探る調査をしてほしい。

取り分け「女性に対する差別・偏見がある、どちらかというところ。」という回答が70%もある。誰がこのように感じているのか、具体的にどういう事を掘り起こしていかないとなかなか解決につながらない。

春原委員

2ページの“今後の方向”の中で「これまでの人権同和教育の成果や手法の見直しを

踏まえつつ」とあるが、基本方針の中で見直した点、成果を踏まえて改善した点は何か教えてほしい。

磐山人権同和教育政策幹

公民館等で自治会懇談会を開いているが「同和教育」になると集まる人が少ない。また、出席しても話し合いに参加しにくいという状況であったことから、少人数グループによる話し合いや体験参加型学習等を取り入れるなど手法を工夫して行きたい。

森教育長

全国的には「同和」という文字を入れない「人権教育」という表記になりつつあるが、上田市では「同和問題では差別が残っている」と思っている市民が56.9%もあることから、従来どおり人権同和教育として取り組んでいる。したがって解放子ども会についても引き続きやって行くという考えである。学習指導要領の中では、小6あたりで人権問題の一つとして同和問題が出てきているが、以前と違い薄い内容になっている。上田市としては、担当の先生方に対する研修等を通じて同和問題を引き続き大事に考えているということ伝えていきたい。

春原委員

学校人権同和教育の「学校」という中には保育園・幼稚園から大学まで全部含まれている。施策の方向性や推進施策を見ると、例えば3ページの「現状」では冒頭に「全学校で」と書いてあるが後を読むと小中学校を指している場合が多い。対象がはっきりしていないので内容がボケてしまう。現場の先生方がこれを読んで自分たちは何をすればいいかがはっきり分かることが大事である。

磐山人権同和教育政策幹

文科省の出した人権教育指導方法の在り方の中では「学校人権教育」ではなく「学校教育における人権教育」と表記している。学校、社会、人権啓発と分けたが、小中学校だけ取り上げることも出来ないことから大まかに“学校人権同和教育”と括らせていただいた。

春原委員

小中学校に限って言うところは「小中学校においては」とか、高校、大学や特別支援学校なども入るようなところは「学校等」というようにしたらどうか。「学校」ではどこを指しているか判り難い。市民や一般の人が読んで小中学校では何をしているか、幼稚園では何をしているか直ぐ分かる事が基本方針の狙いである。

また、現状の中では最も改善してほしい人、聞いてほしい人に対する啓発が難しい。

先日行われた「人権を考える市民のつどい」のような心に響く素晴らしい活動を、またそれが隔々の市民にも届くような啓発をお願いしたい。

西田委員長

字句の訂正は必要か。意見ということでよいか。

春原委員

今までの歴史もあるので意見をお願いしたい。

金子委員

「学校人権同和教育」にすると、固有名詞のように感じられて違和感があるので、「学校における人権同和教育」と、場所を特定する表現にしたらどうか。

聲山人権同和教育政策幹

県の資料を見ると「学校等における」となっている。

西田委員長

社会人権同和教育はどうか。

聲山人権同和教育政策幹

社会人権同和教育については、今までの見直し方法を踏襲している。

西田委員長

文部科学省や県と揃えた方がいい。

聲山人権同和教育政策幹

そのような方向で検討させていただきたい。

西田委員長

基本方針ができたからといって全てが解決するものではない。事が起きてから教えるのではなく、差別や人権無視が起きないように、社会の仕組み等を覚える子供達に基本的な事を早くから教えておくことが大事である。それぞれの場所でこの基本方針が具体化されることをお願いしたい。

全委員 了承

< 報告事項 >

- 1 上田市図書館協議会委員の委嘱について
資料3により大滝上田情報ライブラリー館長説明
- 2 第19回ともしびの里駅伝大会結果について
資料4により下村武石公民館長説明

西田委員長

運営面等の状況はどうだったか。

下村武石公民館長

参加者のアンケートでは80~90%が良かったという結果であった。昨年も同様だった。

生田委員

県外からはどんなチームが参加したか。

下村武石公民館長

群馬県1チーム、愛知県3チーム、東京都練馬区が数チームであった。

西田委員長

県外には特別にPRしたのか。

下村武石公民館長

一度来て良かったからまたという事だと思う。(県外の駅伝関係の事務局には案内等発送してきている。)

- 3 行事共催等申請状況について
 - (1) 資料5-1により保科教育総務課長説明
 - (2) 資料5-2により小野塚学校教育課長説明

西田委員長

共催予定の中に長野市教育委員会、松本市教育委員会とあるが、長野や松本で開催する場合も上田市教育委員会と入るのか。

小野塚学校教育課長

他地域のものに対しては申請がきていない。上田市が後援するのは30日の分だけである。

金子委員

外国籍児童の高校進学は大きな問題である。なるべく多くの方、特に中学校の先生、日本語教育担当の先生、外国籍児童の多い学校の先生に情報を入れて、参加を促してほしい。

(3) 資料5 - 3により原澤生涯学習課長説明

(4) 資料5 - 4により古平体育課長説明

4 その他

浅野中央公民館長

- ・ 「公民館だより」について浅野中央公民館長説明

西田委員長

以上で11月定例教育委員会を終了する。